

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 90分

## 解答形式

記述, 計算, 選択

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

## 出題の特徴

I～IVのすべての問題が(a), (b)の中間に分けて出題された。実質8題の出題となっており, 問題量が多い。

## その他トピックス

論述問題が出題されなかった。

計算過程を記入する問題が出題されなかった。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 計算 選択	(a) 2族元素の性質, 溶解度, 水和物 (b) 電離平衡	化学	(a) 2族元素の単体の性質, 2族元素の水酸化物の溶解度と水和水をもつ沈殿量の計算, 水和水をもつ結晶の熱分解の質量変化に関する計算問題である。 (b) クロムを含むイオンの電離平衡に関する計算問題である。	(a) 標準 (b) やや難
II	記述 計算 選択	(a) 分配平衡 (b) 浸透圧	化学	(a) 水とトルエンを抽出溶媒として用いた, 電離平衡と会合の平衡を含む, 分配平衡の問題である。 (b) U字管を用いたNaCl水溶液の浸透圧測定に関する問題である。	(a) 標準 (b) やや易
III	記述	(a) 酸クロリドとアミンの反応生成物の構造決定 (b) 酸ジクロリドとアミンの反応生成物の構造決定	化学	(a) 酸クロリドとアミンの反応によって得られる, アミド結合をもつ化合物の構造決定に関する問題である。 (b) 酸ジクロリドとアミンの反応によって得られる, アミド結合をもつ化合物の構造決定に関する問題である。	(a) 標準 (b) 標準
IV	記述 選択	(a) 単糖・二糖の構造 (b) 単糖の酸化的分解反応	化学	(a) グルコースとフルクトースを中心に, 一般的な糖の構造に関する問題である。 (b) 糖のC-C結合酸化的に切断する反応を題材に, 糖の分解生成物の構造などを考えさせる問題である。	(a) 標準 (b) やや難

※ 難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

1. 理論・無機・有機とまんべんなく学習しておくこと。
2. 化学平衡に関する学習は深めておくこと。
3. 論述問題の対策には、平素から書く練習をしておくこと。
4. 実験に対する探究的な姿勢も養っておくこと。
5. 問題演習を十分に行っておくこと。